



昔の雪道具

「コスキ」や「ジョンバ」といった日本の伝とうの雪道具は主に木せいで、使い手の体けいや使う目的に合わせて、それぞれの家庭で手作りされることが多かったよ。

コスキ



日本でもっとも伝とう的なじょ雪具で、ブナを材料とした一まい板の雪かき道具。

かたまつた重い雪を切り分けながら捨てるのに、もっともてきした道具。

雪押し・雪み



昭和40年前後になると、鉄せいの雪押しが各地のかじ屋で作られた。

じょ雪しやすくするため底部にカーブをつけるなど、鉄ならではの加工がされた。

ジョンバ(竹製)



かき口にほ強のため鉄板を取り付け、竹であんだもの。

サラサラとした新雪用の雪かきとして、現ざいでも使われている。

木せい雪かき



サラサラとした雪がふる北海道での雪かきに、てきした道具のひとつ。

3つの面に板をつけてかこみ、雪が落ちないようにくふうされている。

カンジキ



板や細い竹(ネマガリダケ)であんだ雪ふみ用のカンジキ。

げんかん先などの新雪は投げ捨てず、ふみかためるのに使用されていた。

雪かき



ほんの少しの力でも遠くへ雪が投げられるよう、へら部分を凹状に曲げて、表面にワックスをぬって雪が付きにくくするなど、くふうされている。

カンジキ



北海道の代表的なカンジキ(雪上歩行具)。

くわの木やたもの木を使用し、歩きやすいように先をそらせたもの、すべり止めのためにつめを付けたものなど、さまざまなタイプがある。

三角ぞり



雪道を歩きやすくするためのじょ雪具。農家で馬に引かせて使っていた。

先を三角にし、雪を両わきへと押し形は、現在も活やくしているじょ雪車にも共通。



現代の雪道具

しよく人による手作りから工場での大量生産がはじまった昭和。プラスチックの広がりやきかいの発達により、より使いやすく、さまざまなシーンで活やくするアイデアあふれる雪道具が次々と登場しているよ。

雪はね・雪かき・雪ベラ・ジョンバ



軽くてやわらかい新雪のじよ雪にてきしている。えが長いので、雪の重さや雪を投げるきよりに合わせて、にぎる部分をかえるようにする。かたい雪に対して無理に使うと、雪をのせるへらがこわれやすい。

プッシャー・ラッセル



雪を持ち上げることなしに、ブルドーザーのように、雪をおして移動させるのに使う。ふったばかりの新雪や、バラバラになったザラメじよの雪を移動させるのに便利。

スノースコップ・角スコップ・剣先スコップ



じよ雪道具の代表。スノースコップは、材質をプラスチックやアルミなどにして、軽量化しているものが多い。角スコップや剣先スコップは、かたくしまった雪をくずしたり、切り分けたりするのに使う。

スノーダンプ



広いはんいの雪をまとめて運ぶには、欠かせない道具。つきさして雪をゆくい、そのままおして雪を運ぶ。かたい雪の場合は、スコップで雪をくずしてばらにしてからダンプに乗せて運ぶ。